

令和 2 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 61 回放射線管理研修会) 概要報告

令和 2 年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

開催の経緯

令和 2 年度放射線取扱部会年次大会（第 61 回放射線管理研修会）は、令和 2 年 11 月 2 日から 30 日までの期間、Web 上で開催されました。本来の開催地は熊本でした。開催期間と会場も決定し、あとはプログラム内容を詰める段階となっていました。が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための非常事態宣言の発出、解除と、その後の状況が読めない中で、5 月 25 日の部会本部運営委員会において、熊本開催の延期と、本部運営委員会が実行委員会となり当年度を Web で開催することを決定しました。誰も経験者のいない中での Web 大会の構成は手探りの状態から始まりましたが、日本アイソトープ協会ホームページ上に特設サイトを設ける、参加費は無料とする、総会資料の掲示とポスター発表は行う、という基本仕様を確定した上で、本部運営委員間で意見を交わすうちに構想は膨らみ、最終的にはポスター質疑応答、リモート相談コーナー、関連情報ワンストップサイト、特別企画 Web アンケートも含めて構成することとなりました。開幕とはいえ何のセレモニーもなく、単に特設サイトへのリンクを始めるだけの静かな作業ではありますが、どのようなことになるのか全く予想もつかない状況で 11 月 2 日を迎えました。

開催の結果

登録参加者数は 297 名で、ほぼ例年並みでした。参加無料ではありますが、やはり特別講演もシンポジウムもなく内容に大幅な制約があることや、参加者間の交流ができないことから、この程度の数字になったものと考えています。ポスター発表は 28 件（うち 2 件は要旨のみ）あり、質疑応答のために設けた電子掲示板には 29 件の書き込みがありました。リモート相談には 3 名の方が来られました。情報ワ

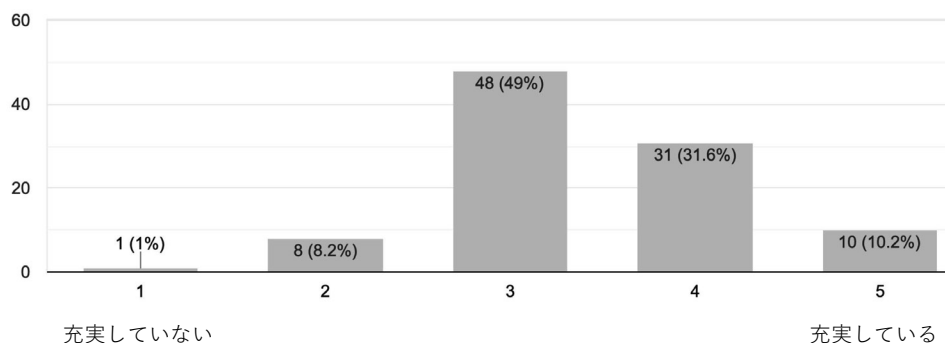
ンストップサイトには、放射線安全規制の現状、次に来そうな法規則改正、水晶体の線量限度、防災、公的研究費、国内・国際機関の動き、放射線教育資料等、知りたい内容別にサイトを整理して掲示しました。アクセス数（ページビュー数）が最も多かったのはポスター発表で、期間を通じて 1,228 回を数えました。特に開会后 1 週間と、閉会前 4 日間のポスター質疑応答の期間に集中的にアクセスが見られました。次いで情報サイト 510 回、総会 465 回、特別企画 408 回となりました。総会では放射線安全取扱部会表彰受賞者が紹介され、功労表彰を谷川勝至氏（東京大学）、柴和弘氏（金沢大学）が、放射線安全管理奨励賞を牧大介氏（京都大学）、廣田昌大氏（信州大学）、近藤真理氏（名古屋大学）、山内基弘氏（長崎大学）が受賞されました。また、優秀ポスターも例年通り実行委員会により選考され、まさしく時を得た「コロナ禍において e-learning で行う放射線教育訓練」を発表された田村文香氏（京都工芸繊維大学）が最優秀賞に、三浦美和氏（長崎大学）と小坂尚樹氏（東京大学）が優秀賞に選ばれ、最終日に発表されました。部会表彰、ポスター表彰共に表彰式抜き寂しい授与となりましたが、内容的には従来通り高いレベルを維持しておりますので、今後のますますのご発展とご活躍を期待したいと思います。特別企画として行われた「コロナ禍での放射線安全管理」調査の結果は、令和 3 年 1 月 20 日に速報版が協会ホームページに公開されております。今後の部会による企画事業に生かされるものと思っております。

アンケートによるフィードバック

今回の Web 大会は、参加者にどのように受け止められていたのでしょうか。Google Forms でのアンケートには 98 件の回答が寄せられました。下図に結果を

Q1. プログラムの構成内容

98 件の回答

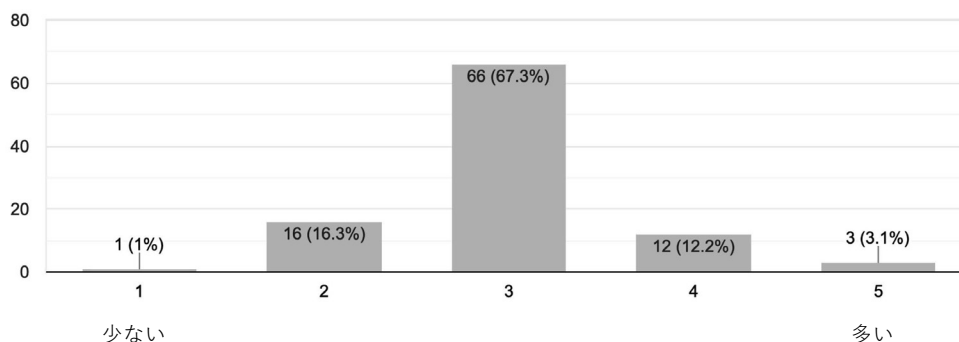


充実していない

充実している

Q2. プログラムのボリューム

98 件の回答

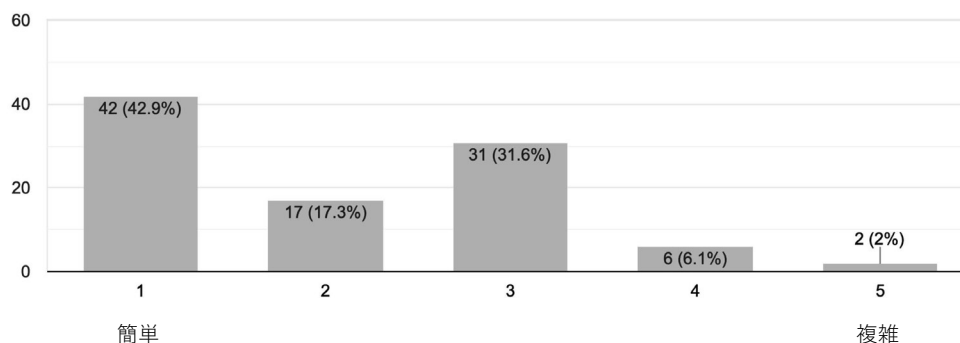


少ない

多い

Q3. 参加方法

98 件の回答



簡単

複雑

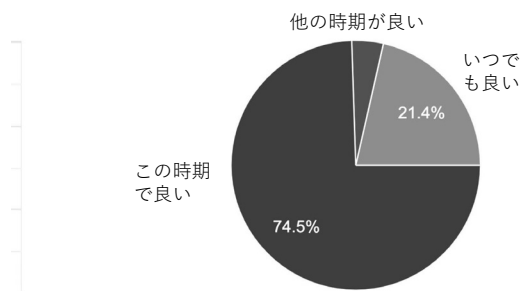
示しますが、構成の充実度はまずまず、ボリューム的には適度、参加方法はどちらかというと簡単、開催時期と開催期間も適当、という評価が得られたようです。無料であれば、この程度の内容でも許容範囲ということでしょうか。総合的満足度 4 又は 5 の回答が合わせて 48.0%、3 の回答が 38.8% となりました。なお、図には示しませんが、各プログラムの満足度評価 4 又は 5 の合計は、総会 25.6%、ポスター発表（閲覧）64.6%、ポスター発表（質疑応答）

31.4%、情報ワンストップサイト 30.8%、コロナ禍アンケート 39.1%でした。

個別意見も 23 名の方からいただきました。時間や旅費の制約なく参加できる、その場に居合わせなくてもポスター討論が確認できる、いつもよりポスター発表をじっくり見られた、等が Web 開催の利点かと思われます。一方、今回の仕様の最大の弱点である Web 配信ができなかったことについては、規制動向について資料やリンクがあるだけでは最近

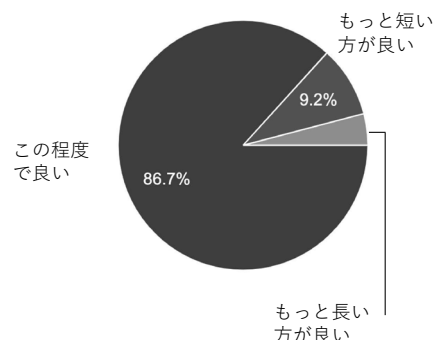
Q4. 開催時期

98 件の回答



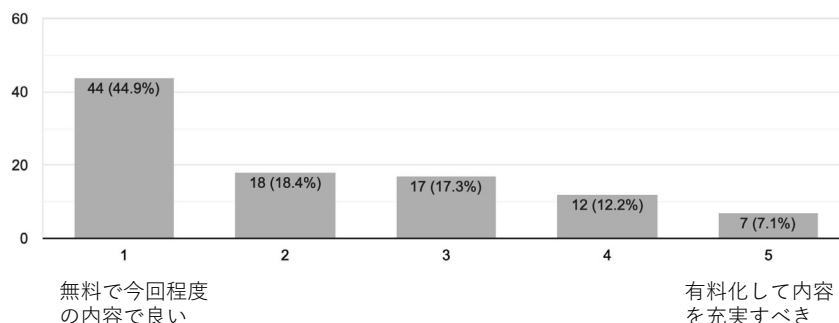
Q5. 開催期間（約1ヶ月）

98 件の回答



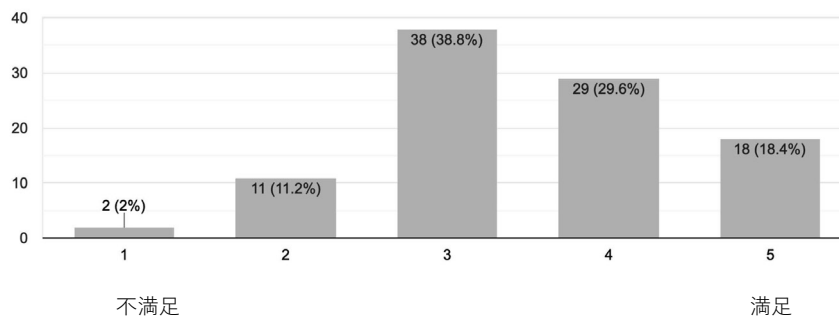
Q6. Web大会の会費

98 件の回答



Q7. Web大会の総合的満足度

98 件の回答



のトピックスや関心事が伝わりにくい、ポスターも動画（本人説明動画付き）で見られるようになるともっと良い、等の指摘を受けました。人的交流という観点からすると Web 開催よりは通常開催の方が良いと思った、というご意見は全くごもっともで、今後も通常開催が基本となることは間違いないですが、現地開催と併行でも良いので Web 開催していただけると情報収集ができて大変助かります、対面と Web の併用で例年並みのプログラム構成を希望する、等アフター・コロナのハイブリッド型開催を

支持するご意見も頂戴しています。また、Web 大会は学生が参加しやすいので、若手育成として工夫していただきたいというご意見も深く受け止めたいと思います。

アンケートでは、参加者及びその所属事業所についての設問も設けましたが、回答は例年と大差はなく、Web 大会による参加者プロフィールの変化は見られませんでした。一方、放射線安全取扱部会の活動として取り上げてほしい興味あるテーマについては、毎年、トップの座にある「教育訓練」が前年

度の54.0%から今回は更に77.6%まで大幅に上昇しました。これは、コロナ禍における教育訓練の工夫にいかにか苦勞されているかということを示しているものと思われます。また、テーマの1つに「知識・技術の伝達・伝承」を追加したところ、これも上位常連の「緊急時の対策・危険時の措置」(59.2%)に次ぐ56.1%を示しました。これらのテーマが、参加者の目から見た部会での活動を期待するテーマの三本柱と言えるでしょう。

参考までに、当年度より全面Web開催となった部会による教育訓練講習会の方式についても同アンケートでお尋ねしたところ、実に76.5%が「対面式とWeb式の両方を併用した方が良い」との回答で、「Web方式のみで良い」も19.4%。「対面式の講習

会のみで良い」は5%にも達しませんでした。多くの講習会が否応なしにWeb開催を模索し、開催してきたわけですが、この回答はアフター・コロナにおける講習会のあるべき姿を映しているように思われます。学術大会と講習会は目的も内容も異なりますが、今回のWeb開催で得た教訓は、次回以降の学術大会の企画構成にも生かせるものと考えます。

最後になりますが、多くの相談事に応じていただいた本部運営委員各位、数々の思いつきのアイデアを特設サイト上で現実の形になるようアレンジし、Web業者との間で奔走していただいた協会事務局そしてすべての参加者の皆様に感謝申し上げます。

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

柴田理尋（委員長）、井原智美、片岡隆浩、出路静彦、福島芳子、藤淵俊王

ポスター発表一覧

分類	番号	表 題	氏 名 (所属)
施設管理・線源管理・被ばく管理	A-01	ガンマ線水モニタの電磁弁故障による RI 貯留槽からの漏水の事例報告	今教禎, 鈴木智和 (大阪大学)
	A-02	鳥取大学における非密封放射性同位元素使用施設の環境整備～約 40 年ぶりの主任者交代～	中山祐二, 北実, 岡田太 (鳥取大学)
	A-03	鉛フリー放射線遮蔽ボード	小田川雅信, 乗物丈巳, 鈴木正樹 (竹中工務店)
	A-04	3.7MBq ^{252}Cf 線源における中性子及び光子の放出角度分布の測定と安全取扱いについて	辻村憲雄, 内田真弘, 星勝也, 高田千恵 (日本原子力研究開発機構)
	A-05	放射線管理区域における身体汚染事例の紹介	小坂尚樹, 鈴木太志, 桧垣正吾, 和田洋一郎 (東京大学)
	A-06	ガラスバッジサービスと個人線量	大登邦充, 岩井淳 (千代田テクノ)
	A-07	「ICRP Publication 130 放射性核種の職業上の摂取：第 1 部」の概要～原子力規制庁の ICRP 刊行物調査翻訳事業より～	迫田幸子 ^{*1,2,3} , 高橋聖 ^{*4} , 吉澤道夫 ^{*4} , 賞雅朝子 ^{*1,3} , 當麻秀樹 ^{*1,3} (2020 年度 ICRP 刊行物翻訳委員会事務局 ^{*1} , 日本アイソトープ協会 ^{*2} , 日本エヌ・ユー・エス ^{*3} , 日本原子力研究開発機構 ^{*4})
コロナ対応	B-01	岡山大学における新型コロナウイルス対策を踏まえた放射線管理について	寺宏宏明, 花房直志, 永松知洋, 磯辺みどり, 今田結, 寺田輝子 (岡山大学)
	B-02	小規模 RI 事業所のコロナ禍における対応事例	尾上昌平 (鹿児島大学)
	B-03	コロナ禍において e-learning で行う放射線教育訓練	田村文香, 北島佐紀人 (京都工芸繊維大学)
放射線教育	C-01	日本アイソトープ協会のインビボ基礎研究領域における取り組み～若手研究者に向けたコンテンツの作成～	津國浩之, 北岡麻美, 中村伸貴, 畑澤順 (日本アイソトープ協会)
	C-02	薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した新規放射線教育プログラム	藤野秀樹 (兵庫医療大学)
	C-03	放射線取扱主任者試験受験に向けた産学連携オンライン放射線教育の取り組み	齋藤凜太郎 ^{*1} , 加藤明子 ^{*2} , 杉山和幸 ^{*2,3} , 猪瀬聡史 ^{*1} , 小池裕也 ^{*1} (明治大学 ^{*1} , オリオン・ラドセーフメディカル ^{*2} , 理化学研究所 ^{*3})
	C-04	全学放射線教育等の e-learning 化における経験	三宅正泰, 佐藤和則, 渡部浩司 (東北大学)
その他	D-01	山陰地方における非密封放射性同位元素使用施設の交流	北実, 中山祐二, 岡田太 (鳥取大学), 山根冬彦, 甲高彩華, 堺弘道, 中川強, 浦野健 (鳥根大学)
	D-02	ホールボディカウンターによる体内放射能測定の歴史 - 長崎大学における測定事例を中心に -	福田直子, 松田尚樹, 工藤崇 (長崎大学), 島崎達也 (熊本大学)
	D-03	ラット甲状腺由来 PCCL-3 細胞における放射性ヨウ素被ばくによる細胞応答性について	三浦美和, 山内基弘, 松田尚樹 (長崎大学)
	D-04	インビボ基礎研究領域における短半減期核種の利用調査～今後の需要を見据えて～	津國浩之, 北岡麻美, 中村伸貴, 畑澤順 (日本アイソトープ協会)
東大特集	E-01	東京大学放射線施設における利用と安全管理の現状と課題 (1) — 本部「放射線管理部の活動」と「放射線取扱者登録管理システム UTRadMS の開発」の現状と課題 —	木村圭志, 久木田沙斗里, 水野利恵, 田野井慶太郎, 三谷啓志, 飯本武志 (東京大学)
	E-02	東京大学放射線施設における利用と安全管理の現状と課題 (2) — 「放射線安全推進活動」と「アイソトープ総合センター」施設の現状と課題 —	飯本武志, 久木田沙斗里, 木村圭志, 水野利恵, 桧垣正吾, 小坂尚樹, 鈴木太志 (東京大学)
	E-03	東京大学放射線施設における利用と安全管理の現状と課題 (3) — 医学部 RI 実験施設の現状と課題 —	榎本敦, 中田よしみ, 鳥井頼子, 山田純子, 宮川清, 飯本武志 (東京大学)
	E-04	東京大学放射線施設における利用と安全管理の現状と課題 (4) — 「理学部」施設の現状と課題 —	谷川勝至, 戸澤英人, 鳥居寛之 (東京大学)
	E-05	東京大学放射線施設における利用と安全管理の現状と課題 (5) — 「新領域創成科学研究科」施設と「教養学部」施設の現状と課題 —	主原 愛, 齋藤泰秀, 木村千穂, 三谷啓志, 滝澤 勉, 小豆川勝見, 角野浩史, 渡邊雄一郎 (東京大学)
	E-06	東京大学放射線施設における利用と安全管理の現状と課題 (6) — 「工学系研究科原子力専攻」施設の現状と課題 —	齊藤拓巳, 吉廻智江, 安見厚志, 石本光憲, 村岡 真, 武田紀子, 橋本英子, 飯本武志 (東京大学)
分科会・委員会報告	F-01	放射線取扱施設における安全管理技術の継承分科会活動報告 2020	放射線取扱施設における安全管理技術の継承分科会 (代表 坂口修一 (山口大学))
	F-02	分科会 PET 施設管理研究会の活動報告	分科会 PET 施設管理研究会
	F-03	実験希望者と RI 施設との適切なマッチングを目的としたコンテンツ開発の取り組み～全国の RI 施設一覧作成分科会活動報告～	松岡千代美, 津國浩之 (日本アイソトープ協会), 松波圭一 (順天堂大学), 原正幸 (東京医科歯科大学), 加藤真介 (横浜薬科大学), 飯塚裕幸 (東京大学)
	F-04	企画専門委員会の活動 — 令和 2 年度教育訓練講習会アンケート調査結果とその考察 —	企画専門委員会